

神戸学院大学 ボランティア活動支援室

神戸学院大学では、ボランティア活動を通して学生の自主性、創造性および社会性をはぐくみ、地域社会へ貢献できるように支援をしています。

ボランティア活動支援室は、活動に関心はあるが、参加の仕方がわからないといった学生や団体に対して専門的なサポートをする、学生とボランティアを繋ぐ架け橋となる場所です。活動情報の発信や学生が参加しやすいプログラムを提供するなどして地域や社会への自発的な参加を促進することで、学生の新たな学びにつなげます。



有瀬キャンパス



ポートアイランドキャンパス

開室日時

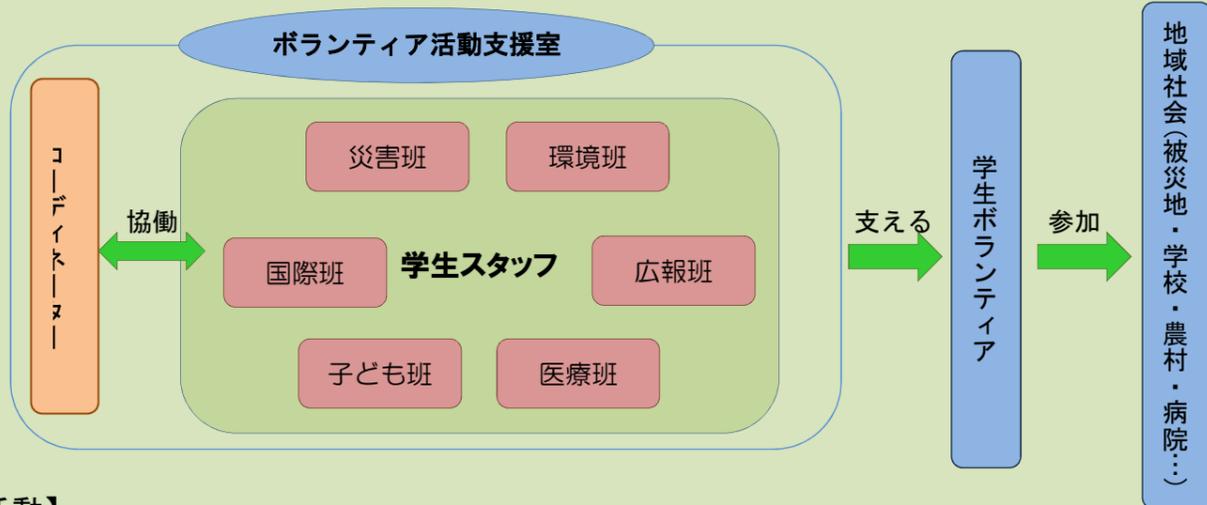
有瀬キャンパス (3号館1階)
ポートアイランドキャンパス (KPC1・B号館3階)
月～金曜日 9:00～17:00 (祝日は閉室)

募集情報

<http://www.kobegakuin.ac.jp/support/volunteer>

ボランティア活動支援室学生スタッフ ~学生による学生のためのサポート~

学生とボランティア活動をつなぐ学生コーディネーターの役割を果たしています。同じ学生の立場でサポートを行うことにより、活動をより身近に感じることができ、より理解が深まります。「参加」「相談」「企画」を三本柱に、取り組みテーマごとに「災害班」「子ども班」「環境班」「医療班」「広報班」「国際班」の6つの班に分かれ、学生ボランティアスタッフの立場で事業を企画・運営しています。



企画会議中の学生スタッフ



【主な活動】

- 新入生ボランティアガイダンス
- ボランティア活動のサポート(相談・情報提供など)
- ボランティア活動情報の提供(掲示物管理・HP・携帯配信など)
- 「サマーボランティア」「スプリングボランティア」および被災地応援ボランティアなどのプログラム企画・運営など

サマー&スプリングボランティア



長期休暇期間を利用し、主にボランティア初心者の学生が参加しやすいプログラムの企画・実施をしています。大学が地域の団体などと相談し、10~20程度のメニューを取り揃え、学生はその中から自主的に参加したい活動に申し込む形式となっています。毎回、学部や学年を超えた100名前後の学生が、医療、福祉、子どもとの交流、環境、まちづくり、被災地支援など多彩な現場で活動を経験し、成長しています。活動の前後には、研修会も実施しており、ボランティアの基礎知識を学んだり、活動後に感想や気づきをお互いに共有することで自身のさらなるステップアップにつなげます。

【活動メニュー例】

- ・子ども・・・デイキャンプ・学習支援
- ・福祉・・・病院・高齢者施設・特別支援学校での交流活動
- ・環境・・・農業サポーター(里山での棚田整備・農園キャンパス)
- ・まちづくり・地域行事への参加(六甲山・麻耶山関連行事・アートイベント)



神戸学院大学

ポートアイランドキャンパス
〒650-8586

神戸市中央区港島1-1-3
Tel: 078-974-1551(代)

有瀬キャンパス

〒651-2180
神戸市西区伊川谷町有瀬518
Tel: 078-974-1551(代)

被災地支援活動

— 阪神・淡路大震災の思いをつなぐ 神戸の大学にできること —

阪神・淡路大震災と東日本大震災、熊本地震

1995年、阪神・淡路大震災によって私たちのまちは大きな被害を受け、震源地に一番近い総合大学である本学においてもその傷跡が大きく残りました。国内外からの支援を受け、復興の道を歩む過程で命の大切さや絆、思いやりや支え合いなど、多くの経験と教訓を学びました。

教育機関である大学は、何をなすべきか。教育や研究を通して、震災で失った地域コミュニティの復興や次なる災害への備え・防災教育を展開し、災害に強い街、災害に強い人づくりをしていくことではないかと考え、伝える・備える・生かす取り組みを行ってきました。そして2005年4月にボランティア活動支援室、2014年4月に現代社会学部社会防災学科が開設されました。東日本大震災の被災地をはじめ、兵庫県丹波市、広島市(共に2014年)、茨城県常総市(2015年)、そして2016年から熊本地震の被災地へ、2018年は、西日本豪雨、2019年には台風19号の水害被災地へと学生ボランティアを中心とする支援活動の経験を積み重ねています。これまでの被災地への送り出しは132回で、活動人数は学生1321人、教職員226人(2019年12月現在)です。

東北での取り組み

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、地震発生の翌日に学長を本部長とする「災害支援対策本部」を立ち上げ、その一週間後には先遣隊を派遣しました。2011年の夏休みからは、現地の社会福祉協議会、自治会等との連携のもとで、仮設住宅の住民の方々の生活向上につながる活動を実践してきました。2017年までに92回、975人の学生を送りだし、現在も形を変えて継続しています。

▶ 仮設住宅周辺マップ制作

石巻専修大学との協働で生活情報を集めた仮設住宅周辺マップを作成。2011年度に初版、2012・2014年度に改訂版を配布しました。

▶ 集会所を拠点に人が集う空間づくり/住民の方とベンチ・濡れ縁制作

▶ 年末の大掃除

▶ スタディーツアー

2018年からは東北の“今”を学ぶスタディーツアーを実施しています。



阿蘇・熊本での取り組み

▶ 熊本地震被災地

(教育後援会・同窓会補助プログラム)



(熊本支援、瓦礫の片付け)

2016年4月の地震で甚大な被害を受けた熊本県へ緊急支援ボランティア(計6回、学生74人)を行いました。

熊本県益城町、西原村、南阿蘇村での被災家屋、神社の片付け、避難者への足湯活動の他、後半は仮設住宅や農業支援活動など、現地の大学やNPOと連携して活動に取り組みました。この活動では、本学の教育後援会や同窓会等から支援をいただき、春休みに実施した第6陣では、関西と九州支部の同窓生と共に活動しました。



2017年度以降も活動を継続。内容は緊急支援から仮設住宅生活支援等へ移行。熊本の大学(熊本学園大学、九州ルーテル学院大学等)に協力をいただきながら進めています。また阿蘇神社前町商店街の魅力を神戸に伝える「阿蘇応援ブログ」を開設し、学生目線で情報を発信してきました。

<http://asokobe.hatenablog.com/>

被災地緊急支援

▶ 西日本豪雨被災地

(ひょうごボランティアプラザ協働事業)

2018年7月の台風7号により、西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨となり、水害、土砂災害等が発生し、死者、行方不明者が多数となる甚大な被害をもたらしました。

7月21日の第1陣(広島市安佐北区)を皮切りに、第2陣・3陣・4陣(いずれも岡山県倉敷市真備町)と緊急支援ボランティアを実施しました。

また、神戸でできる支援として、募金活動も実施しました。



▶ 令和元年台風第19号被災地

(ひょうごボランティアプラザ協働事業)

2019年10月10日から13日にかけて、台風19号により発達した雨雲や台風周辺の湿った空気の影響により、静岡県や関東甲信地方、東北地方を中止に広い範囲で記録的な大雨となり、水害、土砂災害等が発生。死者、行方不明者も多数となる甚大な被害をもたらしました。

11月1~3日に長野市で、11月16~17日と12月7~8日は宮城県伊具郡丸森町で被災家屋の泥かきや掃除などを行いました。



神戸での取り組み

▶ 被災地応援物産展

東北、熊本の物産を取り寄せ販売し、購入する方に現地の様子を伝えることも大切にしています。これまで32回開催し、今後も地域のイベントなどで継続していきます。



(被災地応援物産展)

▶ キャンパスのある地域で防災活動

(学生・西区連携まちづくり活動助成事業)

2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大の中でも地域と連携してできる防災活動として、防災情報誌の発行を行いました。

また、キャンパスのある地域の方とリモート会議を重ね、防災学習会、ハザードマップ作り、防災訓練への参画など、活動の広がりを見せています。



学生と地域リーダーによる
防災MAPワークショップ

防災情報誌『いっせいのせ』